

《恆存は上記「二元論」的概念で以下の文人及び作品登場人物をかう捉へた》

彼等における C とは、B とは、A とは、そしてその對立から現出するアイロニーとは……。 (フローベール以下、各項目の詳細説明は下欄)

二元論 的概念 を基に した各 文人別 比較	彼等の、 夢想 (C) 或いは 夢想的要 素	彼等の、夢 想 (C) を 追ふ自 己：個人的 自我 (B)	彼等の、現 實的常識 (A)・集 団的自 我……。 (ク リティック な場)	アイロニー (逆説) 的苦境を脱せんが爲 の笑ひの効用……。彼等の、アイロニーの 情況 (「口邊に苦笑」・笑ひを惹起する内 容：具體的情況) ~~~~~ それは「精神的と物質的」「自由と機械的 動作」「夢想と常識」なるものの對立から 惹起される。 (『小説の運命Ⅱ』 p 615)
セルバ ンテス (ルネ サンス 人)	神 (中世) の代はり としての 騎士道 (C)	ドンキホ ーテ (B)	従僕サン チョ・パン サ (A: 常 識)	「中世—神＝ルネサンス (自由)」時代に おける、「ドンキホーテ (B: 夢想を追ふ 自己)」と「サンチョ・パンサ (A: (常 識)」のアイロニーの可笑しさ。
フロー ベール (詳細 説明は 下欄)	神・理想 人間像 (C)	實證精神 に客體化 され過ぎ 「一分の 隙もない 天窓」とな った近代。	代理 (A) としての 「ボヴァ リー夫人」	1. 「ボヴァリズム＝本能萎縮形態」と言 ふ近代が抱へる處の時代的アイロニー。 2. フローベールの「プロゼイック (平 凡) な作品に苦笑を讀みとる」には、そ の「夢想 (C) を索引とするとき」。
チェー ホフ (詳細 説明は 下欄)	「無執 着」・「底 意のない 眼」	トルスト イの影響 から脱し た後の精 神 (B) の 「空家 (神 不在)」	医者とし ての實證 精神 (A) が持つ監 視の眼。そ れと「空き 家 (神不 在)」に堪 へる個人 的自我 (B) の拮抗。	1. 「D 3: 自己解釈＝本能萎縮形態」と 言ふ近代が抱へる處の時代的アイロニ ー。 2. 批評家や讀者が錯覺して、チェーホ フの寫實の意味と方法を理解が出来なかつた事への「口邊に苦笑」。 チェーホフの寫實「在るがままに描いた」 の対象は、「D 3: 自己解釈」なのであり、 いはゆるリアリズム作家がする様な、精 神 (B) を A 上 (合理實證の世界) に移し、 それを物として描いてゐるのではない、 と言ふ事。

<p>森鷗外</p> <p>(詳細説明は下欄)</p>	<p>鷗外の夢想・・・ 儒教・道德・武士道・自然観</p>	<p>實生活 (A) と文學 (B) の峻別・・・ 文學 (B) は「儒教・道德・武士道・自然」と言ふ夢想 (C) へと繋いだ。</p>	<p>公人としての「職業を通じて、社会との間に緩衝地帯をこしらへてゐた」</p>	<p>1. 近代人鷗外（實證精神）が非近代明治（精神主義）に裁かれてゐる處の、アイロニーが惹き起こす「口邊の苦笑」。</p> <p>2. 旧限定に自己を晒す處からくる「口邊の苦笑」・・・激しい夢想（儒教・道德・武士道）を持ちながら明治の「いはゆる封建制度」の背後に道德そのものを鷗外は見る爲、自己に迫る旧規範・旧道德（A ← A'）に堪へてゐるアイロニー。</p>
-----------------------------	-----------------------------------	--	--	--